

# 定 期 作 況 報 告

平成30年7月  
(7月20日現在)



北見農業試験場

# 1. 気象経過

6月下旬：最高気温および最低気温はともに平年よりやや高く、平均気温は平年並であった。降水量は平年より多かった（平年比174%）。日照時間は平年よりやや少なかった（平年比66%）。

7月上旬：最高気温、最低気温および平均気温はいずれも平年より極めて低かった。降水量は平年より極めて多かった（平年比367%）。日照時間は平年より少なかった（平年比17%）。

7月中旬：最高気温、最低気温および平均気温はいずれも平年並であった。降水量は平年並であった（平年比115%）。日照時間は平年並であった（平年比114%）。

以上のことから、この1か月間（6月下旬～7月中旬）は、気温は平年よりやや低く、降水量は平年より極めて多く、日照時間は平年よりやや少なかった。

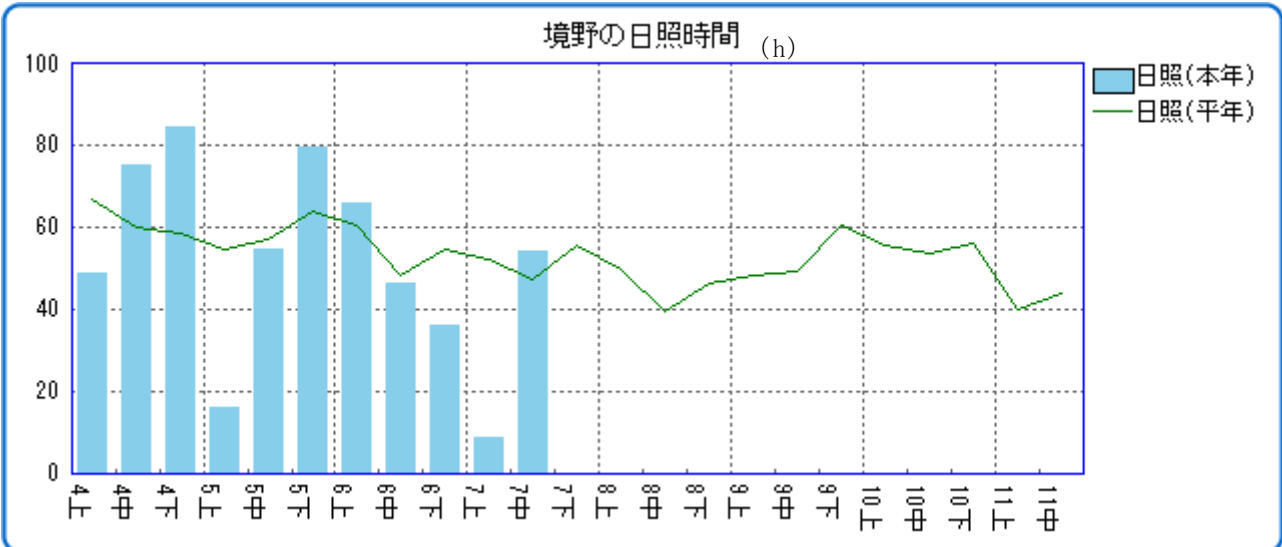
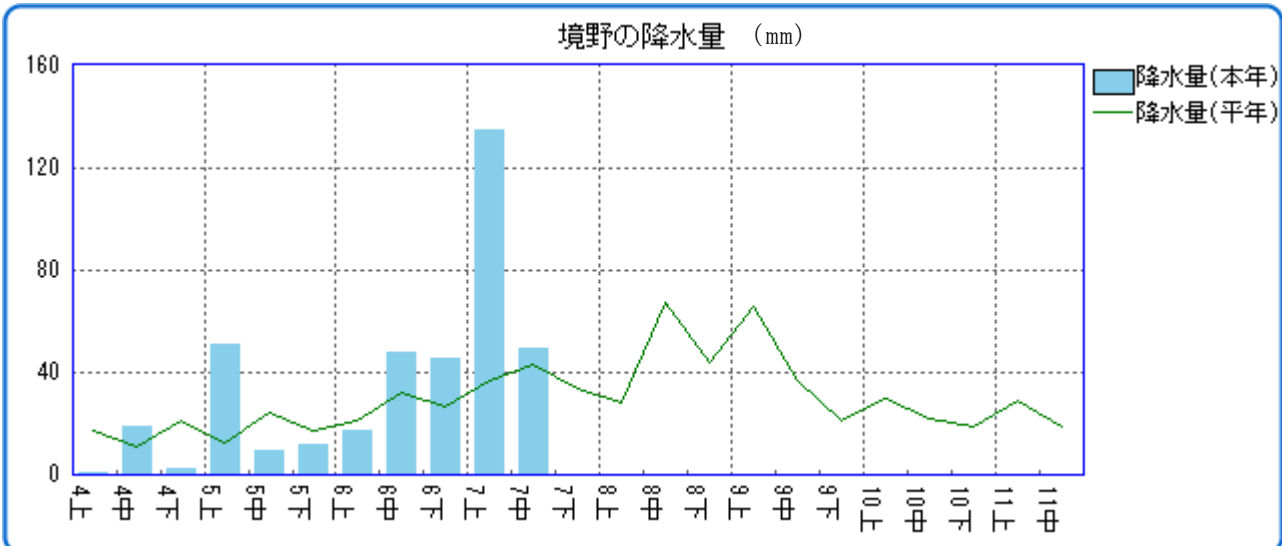
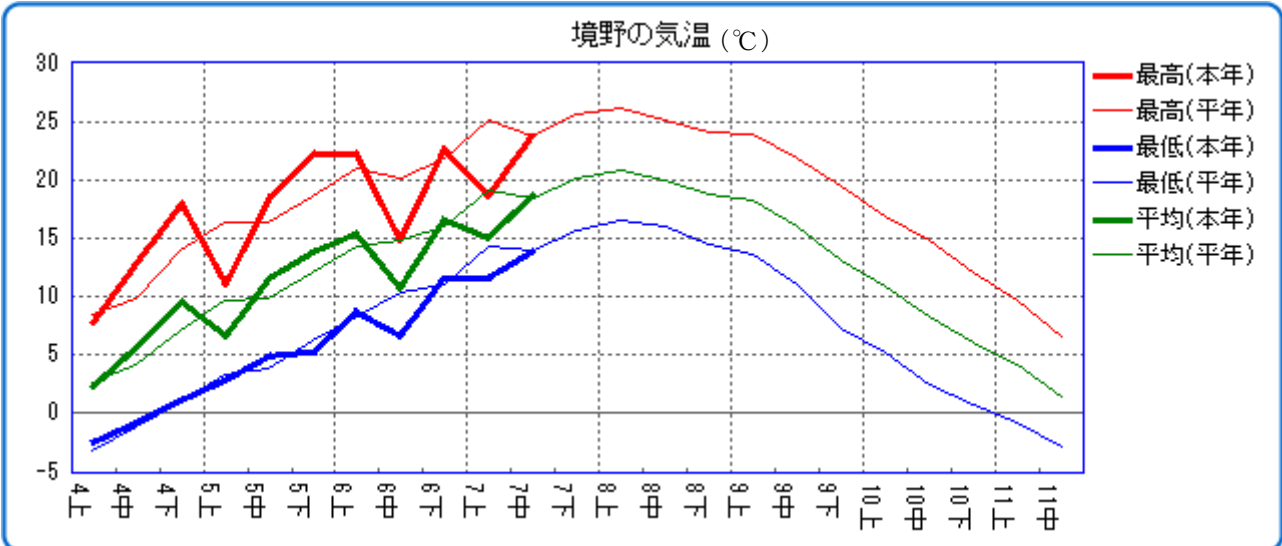
気 象 表

月 旬	平均気温(°C)			最高気温(°C)			最低気温(°C)		
	本年	10年平均	比較	本年	10年平均	比較	本年	10年平均	比較
6月 下旬	16.5	16.0	0.5	22.5	21.8	0.7	11.6	11.0	0.6
7月 上旬	15.0	19.1	-4.1	18.7	25.1	-6.4	11.6	14.3	-2.7
7月 中旬	18.6	18.4	0.2	23.7	23.8	-0.1	13.9	13.9	0.0

月 旬	降水量(mm)			日照時間(hr)		
	本年	10年平均	比較	本年	10年平均	比較
6月 下旬	45.5	26.2	19.3	36.3	54.9	-18.6
7月 上旬	134.5	36.6	97.9	8.7	52.3	-43.6
7月 中旬	49.0	42.5	6.5	54.1	47.3	6.8

注) 観測値は置戸町境野のアメダスデータである。

10年平均は前10か年間の平均値である。



## 2. 当場の作況

注) 本作況報告は北海道立総合研究機構北見農業試験場の平年値に対する生育良否に基づいたものであり、オホーツク管内全体を代表するものではありません。

### 1) 秋まき小麦 作 況：やや不良

事 由：6月中旬以降の降水量が多かったことから、赤かび病がわずかに発生した。6月下旬および7月中旬の平均気温は平年並に経過したが、7月上旬は極めて低く経過し、登熟の進捗は緩慢である。稈長は平年よりやや短く、穂長は平年並、穂数は少なかった。倒伏は未発生である。

以上のことから、目下の作況は「やや不良」である。

調査項目	きたほなみ		
	本年	平年	比較
稈長(cm) (7月20日)	79	84	△5
穂長(cm) (7月20日)	8.7	8.8	△0.1
穂数(本/m <sup>2</sup> ) (7月20日)	663	735	△72

注) 平年値は前7か年中、平成27年(最豊)、29年(最凶)を除く5か年の平均。

### 2) 春まき小麦 作 況：やや良

事 由：出穂期は平年より1～2日早かった。開花以降の6月下旬以降に降水量が多かったことから赤かび病が多く発生しているが、両品種とも稈長は平年並で、穂長はやや長く、穂数は多い。

以上のことから、目下の作況は「やや良」である。

調査項目	春よ恋			はるきらり		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
出穂期 (月.日)	6.21	6.23	△2	6.20	6.21	△1
稈長(cm) (7月20日)	95	97	△2	91	94	△3
穂長(cm) (7月20日)	8.8	8.0	0.8	8.0	7.4	0.6
穂数(本/m <sup>2</sup> ) (7月20日)	738	595	142	711	609	102

注) 平年値は前7か年中、平成27年(最豊)、29年(最凶)を除く5か年の平均。

### 3) とうもろこし (サイレージ用) 作 況 : 不良

事 由 : 6月下旬以降の低温寡照傾向により、葉数は平年と同程度であるものの草丈は平年より極めて低い。

以上のことから、目下の作況は「不良」である。

調査項目	チベリウス		
	本年	平年	比較
草丈(cm) (7月20日)	98.6	171.3	△72.7
葉数(枚) (7月20日)	12.1	12.7	△0.6

注) 平年値は前7か年中、平成23年(最豊)、25年(最凶)を除く5か年の平均。

### 4) 大 豆 作 況 : 不良

事 由 : 6月下旬以降の低温寡照傾向により、生育の遅れは拡大し、7月20日現在開花始には至っていない。主茎長、本葉数、分枝数とも平年を大きく下回っている。

以上のことから、目下の作況は「不良」である。

調査項目	ユキホマレ		
	本年	平年	比較
開花始 (月.日)	—	7.18	—
主茎長(cm) (7月20日)	38.9	55.4	△16.5
本葉数(枚) (7月20日)	4.8	7.8	△3.0
分枝数(本/株) (7月20日)	2.6	5.0	△2.4

注) 平年値は前7か年中、平成23年(最豊)、28年(最凶)を除く5か年の平均。

### 5) 小 豆 作 況 : 不良

事 由 : 6月下旬以降以降の低温寡照傾向により、生育の遅れは拡大している。主茎長、本葉数、分枝数とも平年を大きく下回っている。

以上のことから、目下の作況は「不良」である。

調査項目	サホロショウズ			エリモショウズ		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
開花始 (月.日)	—	7.22	—	—	7.24	—
主茎長(cm) (7月20日)	10.3	20.9	△10.6	10.9	20.2	△9.3
本葉数(枚) (7月20日)	3.1	7.0	△3.9	3.1	7.1	△4.0
分枝数(本/株) (7月20日)	0.0	2.4	△2.4	0.0	2.4	△2.4

注) 平年値は前7か年中、平成23年(最豊)、28年(最凶)を除く5か年の平均。

## 6) 菜豆

作況：不良

事由：6月下旬以降の低温寡照傾向により、生育の遅れは拡大し、開花始は平年より7日遅い7月15日であった。本葉数は平年並であるが、草丈は平年を大きく下回っており、分枝数も平年をやや下回っている。

以上のことから、目下の作況は「不良」である。

調査項目	大正金時		
	本年	平年	比較
開花始 (月.日)	7.15	7.8	7
草丈(cm) (7月20日)	27.5	44.7	△17.2
本葉数(枚) (7月20日)	3.5	3.4	0.1
分枝数(本/株) (7月20日)	4.7	5.5	△0.8

注) 平年値は前7か年中、平成23年(最豊)、28年(最凶)を除く5か年の平均。

## 7) ばれいしょ

作況：やや不良

事由：萌芽は平年並であったが、6月中旬の気温が低く経過したことから、開花始は平年より2～3日遅かった。土壌水分が十分にあることから、茎長は両品種ともにほぼ平年並であるが、徒長気味の地上部生育となっている。

以上のことから、目下の作況は「やや不良」である。

調査項目	男爵薯			コナフブキ		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
開花始 (月.日)	7.3	6.30	3	7.1	6.29	2
茎長(cm) (7月20日)	52	51	1	77	70	7
茎数(本/株) (7月20日)	3.9	3.9	0	3.8	3.5	0.3

注) 平年値は前7か年中、平成24年(最豊)、29年(最凶)を除く5か年の平均

8) てんさい

作 況：やや不良

事 由：7月上旬の低温と日照不足により、地上部の生育はほぼ平年並であるものの、根重は平年を下回っている。

以上のことから、目下の作況は「やや不良」である。

調査項目	移植						直播		
	リッカ			アマホマレ			リッカ		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
草丈 (cm) (7月20日)	53.0	54.8	△ 1.8	54.6	53.4	1.2	46.4	49.2	△ 2.8
生葉数 (枚) (7月20日)	18.0	18.4	△ 0.4	19.8	20.6	△ 0.8	14.8	15.6	△ 0.8
茎葉重 (g/個体) (7月20日)	551	556	△ 5	636	585	51	294	380	△ 86
根重 (g/個体) (7月20日)	231	278	△ 47	271	292	△ 21	76	116	△ 40
根周 (cm) (7月20日)	21.6	22.7	△ 1.1	23.1	23.6	△ 0.5	14.3	16.9	△ 2.6

注1) 平年値は前7か年中、平成26年(最豊)、28年(最凶)を除く5か年の平均。

9) 牧 草 (チモシー)

作 況：平年並

事 由：1番草の乾物収量は平年比97%と平年並であった(前報)。2番草再生時の草丈は平年並で、欠株の発生も認められていない。

以上のことから、目下の作況は「平年並」である。

調査項目	ノサップ		
	本年	平年	比較
被度 (%) 2番草再生時(7/9)	100	100	0
草丈 (cm) 2番草再生時(7/9)	37	36	1

注) 平年値は前7か年中、平成24年(最豊)、27年(最凶)を除く5か年の平均。

## 10) たまねぎ

作 況：やや不良

事 由：6月下旬から7月上旬の低温寡照により球肥大は遅れている。両品種とも草丈および葉鞘径、葉身生重は概ね平年並であるものの、生葉数はやや少なく、球生重は平年を下回っている。降水量が多く、7月上旬から一部で葉部病害の発生が認められている。

以上のことから、目下の作況は「やや不良」である。

調査項目	オホーツク222			北もみじ2000		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
球肥大期 (月・日)	7.17	7.11	6	-	7.19	-
草丈(cm) (7月20日)	90.6	86.7	3.9	89.0	85.0	4.0
生葉数(枚) (7月20日)	8.8	9.7	△0.9	8.6	9.5	△0.9
葉鞘径(mm) (7月20日)	23.4	22.1	1.3	21.7	21.3	0.4
葉身生重(g) (7月20日)	166.3	175.4	△9.1	138.9	143.1	△4.2
球生重(g) (7月20日)	57.3	108.8	△51.5	44.1	63.9	△19.8

注) 平年値は前7か年中、平成23年(最豊)、25年(最凶)を除く5か年の平均。